

公的年金の分かりやすい情報発信モデル事業検討会

若年層に向けた国民年金保険料納付促進モデル事業

第8回検討会資料

dentsu

電通パブリックリレーションズ

本日の検討会では、若年層に向けた国民年金保険料納付促進モデル事業の実施報告ならびに、アンケート結果をご報告させていただきたいと考えております。

議案①

モデル事業・準モデル事業の実施について

P.3

1.制作物の修正方針および修正後の制作物

1-1. 前回の検討会を踏まえての制作物の修正状況

4

制作物	前回の検討会での構成員からの評価/コメント		
パンフレット	■ 全体的に非常に良く出来ている。 ■ 法令上の表現に適さない箇所があるので、文言等法令上の表現に修正したほうがよい。		修正 有
ワークシート	■ シミュレートされている内容が地理的・属性的に普遍的でなく、実感が伴わないのではないか。 ■ ライフイベントシミュレーションシートを使用しない方が良いのではないか。		修正 有
動画	■ 非常に分かりやすい動画に仕上がっていると感じられる。		修正 無

修正箇所

文言表現：法令に基づく表現に修正



詳細は別紙「20歳になったら国民年金」をご参照下さい。

修正箇所

修正あり



【オープニング】

男性と女性のアイコンが、20歳になったときから、定年するまでのオーソドックスな時間を過ごしているムービー。

[ナレーション]

“思い起こせば20歳になったときから、色々ありました。楽しいことや苦しいこと、山あり谷ありの充実した時間を過ごしてきて、ついに今日、引退を迎えました、、、。”

【多い？少ない？公的年金で生活している人たち。】

職業の引退を迎えると、多くの人たちが無職になります。全ての仕事で共通しているわけではないけれど、日本では大体60～65歳。そうした高齢無職世帯の1ヶ月に必要な金額は約26万円といわれています。でも、、、そのお金はどこからきているのか...？

だって皆無職なんじゃ、、、。

答えは、年金！

あ、この年金とは国が運営する公的年金のことをいっています。

民間の運営する個人年金は含みませんのでご注意ください。

この公的年金、現在は約3900万人の人が受給をしています。

そして、国民年金だけの人でも月額平均約5万円、厚生年金は約15万円の年金が支払われています。どうですか？多いですか？少ないですか？

実は、

年金の受け取っている人たちの6割程度が年金だけで生活をしているんです！

もちろん働いている人もいますが、

その人たちの所得も平均7割は年金が占めています。

ほとんどの人たちにとって、年金が老後の支えになっているどころか、年金がないと生きていけないくらいの大事なものです。

修正箇所

修正なし

【社会問題解決のため、年金制度 桃太郎】

年金の制度はご存知ですか？

わかりやすく桃太郎に例えてみます。

時は現代。世の中には“将来への不安”という鬼が、人々をこわがらせていました。

そこに、桃太郎という青年がキビダンゴというものを携えて、その鬼たちをやっつける旅にでました。

旅の途中、桃太郎は、3人の不信感をもった動物たちに出会います。彼らにキビダンゴを渡して、一緒に鬼をやっつけようと誘います。でも、彼らはこんなことをいいます。

犬は言いました。「そのキビダンゴ、本当にみんな食べるんですか？」
自分だけが参加することに不安をもっているみたいです。
大丈夫、みんな参加するよと説明して仲間になってくれました。

猿はいいました「そのキビダンゴ、本当になくなるのですか？」
鬼との戦いの途中でなくなってしまうことを心配しているみたいです。
大丈夫、必ず持続しますよと説明して仲間になってくれました。

キジはいいました「そのキビダンゴ、本当に役立つんですか？」
今はまだキビダンゴを必要としていないけど将来的には必要になりそうで質問をしてきました。
大丈夫、いろいろな場面でみんなを元気にすることができるんですよと説明して仲間になってくれました。

こうして、キビダンゴをもって桃太郎は仲間たちと鬼をやっつけることができ、将来安心してくらすことができたのです。

そう、このキビダンゴこそが年金、桃太郎は日本という国なんです！
桃太郎とキビダンゴを信頼して、一緒に将来の不安をやっつけましょう！
鬼退治をしましょう！



2-1. モデル事業実施概要（電通パブリックリレーションズが実施）

9

	高等学校	大学
実施目的	本モデル事業で制作している制作物を実際の高校・大学でモデル実施し、その講演内容に関してアンケートを実施し、今後の制作物の修正点を明らかにする。	
実施校	東京都立蒲田高等学校	大妻女子大学
実施日	2015年1月14日(水)	2015年1月16日(金)
実施時間	2限(9:40～10:30)+3限(10:40～11:30) 計100分 ※10分間の休憩挟む	1限 計90分
講師	東京都立蒲田高等学校 教諭(公民科) 浅川 貴広 氏	東進ハイスクール 講師(政治経済) 清水 雅博 氏
実施内容	・教材(ワークシート、VTR)を活用した講義 ・講義に関するアンケート	

- ・厚生労働省及び日本年金機構が本モデル事業で制作している教材を使用し、準モデル事業として高校・大学で授業を行っているところ。
- ・準モデル事業では、受講人数・講演時間など様々な条件のなかで、本モデル事業で制作する教材を実際に厚生労働省・日本年金機構の職員が実施し、その改善点を把握することを目的とする。
- ・準モデル事業においても、本モデル事業と同様に授業アンケートを実施し、受講生の視点からの修正点を明らかにしている。

実施校	実施日時	講師
千葉県立薬園台高校	平成27年1月28日	厚生労働省及び日本年金機構
神奈川県立横浜青陵高校	平成27年1月29日	日本年金機構
神奈川県立海洋科学高校	平成27年1月30日	厚生労働省
流通経済大学	平成27年2月12日 予定	日本年金機構
東京都立杉並総合高校	平成27年2月16日 予定	日本年金機構
千葉県立安房拓心高校	平成27年3月中旬 予定	厚生労働省

2-3. 講義構成① 《高等学校：100分間》参考資料2-2

11

09:40	05分	趣旨説明
		★教材+アンケート 配布
09:45	05分	ライフイベントシミュレーションの確認
		★教材(ワークシート) 使用
		●年齢、職業のシミュレーションを記入するライフイベントシートを配布、記入してもらう
09:50	07分	ライフプランシミュレーション① 作成
		★教材(ワークシート) 使用
		●4～5名程度の小グループ編成を作り、「65歳になったときの生活支出」を算出。ワークシートに記入してもらう ※各自に役割を与え、能動的な参加を促す
09:57	10分	グループ発表
		★教材(ワークシート) 使用
		●学生…各グループ代表者が生活支出予想を発表 ●講師…一般的な1か月の老後生活費を提示 …平均寿命から分かる”老後に必要な総額”を提示 ⇒この国の平均寿命は男性80.21歳、女性86.61歳(‘14年 厚生労働省発表) ⇒65歳から寿命をまっとうするまでは約15年～20年 ⇒毎月の老後生活費がおおよそ××万円だとすると、合計××万円が必要 ⇒定期収入がないかもしれない老後生活。年金がない場合の生活、あなたはどのように生きていきますか と問題提起
10:07	05分	VTR① 視聴
		★VTR①視聴 【多い？少ない？公的年金で生活している人たち。】【社会問題解決のため、年金制度 桃太郎】
10:12	10分	講師による解説
		★教材(ワークシート)+パンフレット 使用
		●VTRの重要ポイントをおさらい解説 ●ワークシートの穴埋め
10:22	08分	ライフプランシミュレーション② 作成
		★教材(ワークシート) 使用
		・ライフプラン①と同様にグループで、「35歳になったときの生活支出」を算出。

10:40	07分	グループ発表
★教材(ワークシート) 使用 ●学生…各グループ代表者が生活支出予想を発表 ●講師…一般的な1か月の生活費を提示 …ケガをして働けなくなったら？夫(妻)が死亡したら？65歳以上の親の生活を負担したら？ - と”もしもの場合”を提示 ⇒「国民年金保険料はなぜ払わないといけないのでしょうか？」「国民年金はあなたをどう助けるのでしょうか」と問題提示		
10:47	07分	VTR② 視聴
★VTR②視聴 【意外に知らない新事実① 年金のもう1つの顔】【意外に知らない新事実② 年金の半分は税金。】 【民間個人年金、、、？】【払えない人、そして、払わない人。】【気軽に相談して下さい。】		
10:54	07分	講師による解説
★教材(ワークシート)+パンフレット 使用 ●VTRの重要ポイントをおさらい解説 ●ワークシートの穴埋め		
11:01	10分	申込書記入の実践
★教材(申込書) 使用 ●国民年金被保険者資格取得届、免除・納付猶予申請書を配布し、一部に記入を実践。また国民年金手帳も提示する。		
11:11	10分	質疑応答・総括
●学生から講師へ、講師から学生へ質問を行い、理解をさらに深める ●グループ発表で拾えなかった少数意見を、講師からの質問形式で洗い出し、各ケーススタディに対応した指導を実施		
11:21	09分	アンケート
★アンケート使用 ●各自アンケート記入～回収		

02分

趣旨説明

★教材+アンケート 配布

22分

社会保障「4本の柱」について講義

●国民年金への導入として、社会保険、社会福祉、公衆衛生、公的扶助について説明し、社会保障の全体像への理解を深める講義を展開

05分

ライフイベントシミュレーション

★教材(ワークシート) 使用

●年齢、職業のシミュレーションを記入するライフイベントシートを配布、記入してもらう

05分

ライフプランシミュレーション① 作成

★教材(ワークシート) 使用

・各自で「65歳になったときの生活支出」を算出。ワークシートに記入してもらう

04分

発表(数名を個人指名)

★教材(ワークシート) 使用

●講師…何名かの生徒を指名し、数字をヒアリング。

05分

VTR① 視聴

★VTR① 視聴

07分

講師による解説

★教材(ワークシート)+パンフレット 使用予定

●VTRの重要ポイントをおさらい解説 ●ワークシートの穴埋め

05分

ライフプランシミュレーション② 作成

★教材(ワークシート) 使用

- ・各自で「65歳になったときの生活支出」を算出。ワークシートに記入してもらう

04分

発表(数名を個人指名)

★教材(ワークシート) 使用

- 講師…何名かの生徒を指名し、数字をヒアリング。

05分

VTR①② 視聴

★VTR①視聴

07分

講師による解説

★教材(ワークシート)+パンフレット 使用予定

- VTRの重要ポイントをおさらい解説 ●ワークシートの穴埋め

10分

フリートーク・総括

- ★総括では、税と社会保障などへの言及を切り口に、国民年金に限定するのではなく、社会保障全体を考えることを訴求する

09分

アンケート

★アンケート 使用

- 各自アンケート記入～回収

蒲田高校
モデル事業
実施風景



動画①

大妻女子
モデル事業
実施風景



動画②

（その他）
準モデル事業
実施風景



動画③

蒲田高校 モデル事業 実施風景①



蒲田高校 モデル事業 実施風景②



大妻女子 モデル事業 実施風景



- ・準モデル事業実施にあたり、これまで講演を行った経験が少ないものでも講演を円滑に進められるようにするため、独自に副教材を作成するなど工夫し、本モデル事業で作成した教材をもちいて講演を実施している。
- ・また、これまで日本年金機構が行ってきた地域年金展開事業における年金セミナー等で培ってきたノウハウを活かしつつモデル事業の教材を使用するためワークシート・動画以外に副教材を作成している。

【副教材例1】 日本年金機構が行っている年金セミナーを活用した例

千葉県立 薬園台高等学校
(2015. 1. 28)

ー公的年金の分かりやすい情報
発信モデル事業における年金
セミナーー

日本年金機構

【薬園台高校での授業風景】



3-③. 人生の時間を早速いして、想像してみようシート

Let's try!

人生の時間を早速いして、想像してみよう。

Q. たとえば80歳になったあなたにゆらには毎月の生活費はいくら必要?

(実際に人生費を計算して、想像してみてください)

14,500

【授業終了後の先生との意見交換会】



5-② きちんと手続きをして
おくとこんなに違います!

実は!

大学生のAさん
20歳から国民年金への加入と同時に学特の手続きもした。

大学生のBさん
20歳から国民年金に加入したが、納付をせず、学特の手続きもしなかった。

事故に遭い、寝たきり状態に

大学3年の旅行で

障害基礎年金が受け取れる
1級: 約970,000円
2級: 約770,000円

障害基礎年金は受け取れない

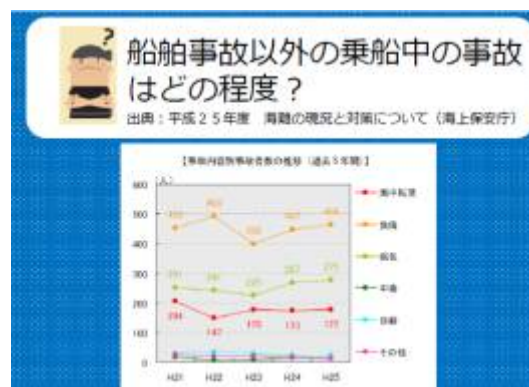
【横浜青陵高校での授業風景】



- ・神奈川県立海洋科学高校などでは、これまで本事業で検討している市町村用パンフレットを活用した副教材を使用することにより、受講者の属性に合わせた講演をモデル的に実施している。
- ・このモデル授業では、より効果的なグループワークを行う観点から、同校の担当の先生のご協力を得て、先生にグループワークにご参加いただいた。
担当の先生が各グループと意見交換することにより、厚生労働省や日本年金機構の担当者が初めてそのクラスで講演を行っても、活発なディスカッションを行うことができた。

【副教材例2】 本事業で検討している市町村用パンフレットを活用した例

公的年金の分かりやすい情報発信
モデル事業 年金セミナー
神奈川県立 海洋科学高等学校
(2015. 1. 30)



【海洋科学高校の授業風景】



担当の先生が
グループワークに
参加している風景



日本年金機構職員
とチームティーチング
をしている風景

3. モデル事業に対する講師/先生の評価・反応

授業全体に
関して

- 2時間持たせるにはやや要素が不足していた。
- 年金制度が何のために作られた制度なのか、など根本的な話をいれてはどうか。
- アンケートをとると、フリーアンサーがたくさん書かれているものほど良い授業であったことが多い。
今回はいつにも増して沢山の書き込みがあり、伝わったのではないかな。
- 子供たちは、乗せると強い。今日はよく乗っていた。

ワークシート
に関して

- キャラクターを使いながら、良く理解できるものになっていた。自由度の高い教材なので、色々と組み合わせることが出来ると思う。
- 2時間、授業を途切れなく進めるためにはワークシートの間をブリッジする喋りの部分で、共通のものを作った方が良い。
- 前述の通り、年金制度に関する根本的な説明資料があると良い。
年金制度とは何か、何のためにあるのかなどのバックボーンに加え、理論を教えても良いと思う。
- 申請書に記入した際、「意外と簡単」といのが上がっていたが、そこに生徒が気が付くだけでも1つの収穫だったのではないかな。

映像に関して

- 心を捉えていたと思う。

グループ
ワーク
に関して

- グループワークは一見授業の進め方を易くしそうだが、危ない形態でもある。うまく回さないと、授業が崩壊する危険性もあるので、グループワークも善し悪し
- グループワークの目的は、教え伝えるためのものではなく、考えるきっかけにさせること。従って、何をどうして良いか判らないと騒ぎ始めるので注意が必要。
- 時間が長いとだらけるため、①短めにする②司会者や発表者を決める(=役割を与える)ことが大事。従って挙手してもらうより、こちらから指名することが大事。

授業構成/ 進行方法に 関して

- 50分授業の場合は、10分間の映像やアンケート記入などの時間もあり、実質的には30分の授業構成
⇒ なかには、抽象的な話が苦手な学生もいるため、ワークシートは35歳と65歳どちらかを選ぶ
とすれば、65歳にしてはどうか。
- 外部の講師より、内部の講師の方がコミュニケーションが上手くいく可能性が高いと考えられる。
一方で内部の講師ではない外部の講師が来ることは生徒にとっても喜ばれることだと考えられる。
適当に生徒を指名することも問題ない。距離感の問題であると考えられる。
外部の世界のことを生徒に聞かせられることも、新しい視点が設定できるのも外部の講師だからこそできること
だと考えている。
- 一番大切なのは、「何を伝えたいのか」という切り口の設定ではないか。例えば卒業後は工場勤務予定者が
多い場合は50年後の年金の話より、障害年金や遺族年金などをクローズアップしたほうが良いかもしれない。
- 言葉の選び方も注意が必要であると思う。
×：「おうちの方」
○：「保護者の方」

授業全体に
関して

- 時間の配分が難しかった。
- (玉木先生)いつも授業は静か。あと1年数カ月で社会に出て行く彼女たちに、社会に出る前に知っておいてほしいいろいろなことを吸収してもらいたいと思っているが、時間がない。伝えたいことを絞るしかないと思う。そういう意味では、厚生年金の話や財政検証の話はしなくても良いかもしれない。とにかく20歳になったら入れ、1号になれ、ということを叩きこみたい。
- 彼女たちのパースペクティブを伸ばすのは大変。お金の話は総じて有効。今日も関心が高そうだった。

ワークシート
に関して

- ツール間の接続が難しい。どこまで喋るかが問題。
- 自身のレジュメが増えたので、もう少し整理できれば良かった。

映像に関して

- 講義を聞いたうえで視聴すると、より内容が深く頭の中にはいるため有効。
- 老人が弱い感じがしなかった。弱い人たちがいることも表現してはどうか(例.一人暮らしのおばあさん)。

授業構成/
進行方法に
関して

- 今の子どもたちは、物価が上がった経験を持っていない。物価スライドもなかなか理解できないし、実感できない話だ。
- 身近に感じさせるためには親の世代の話为例にするなど、生活に沿った内容にすると良い。ただ、年金不信を払拭するかは別。
- 負うリスクの話は、学校によってカスタマイズした方が良い。
- 長生きリスクや不幸リスクはまだ実感のない世代。うまくいかないときにどうすればいいか、貯蓄ではなく保険という考えを持たせられたら。払うことでどんなメリットがあるかなど、客観的事実を元に損得(メリットデメリット)を語るのは有効だろう。
- 少し深いことを入れることで、講義のスパイスになり、授業のレベルが上がる。

4. 制作物に対する受講者/生活者の評価・反応

4-1. 調査概要

調査目的

本事業における若年層向け授業、および教材として用いる制作物について、より効果的かつ受容性の高いものとすべく、実際にモデル授業を受講した学生へのアンケートを通じ、今後の改善に役立つような示唆を得る。

調査概要

■ 受講生向けアンケート

調査サンプル数： 計367サンプル

-東京都立蒲田高等学校：27 s

-大妻女子大学：37 s

-神奈川県立海洋科学高校：37 s

-千葉県立薬園台高校 266 s

※赤字：モデル事業 青字：準モデル事業

※回答は無記名で実施

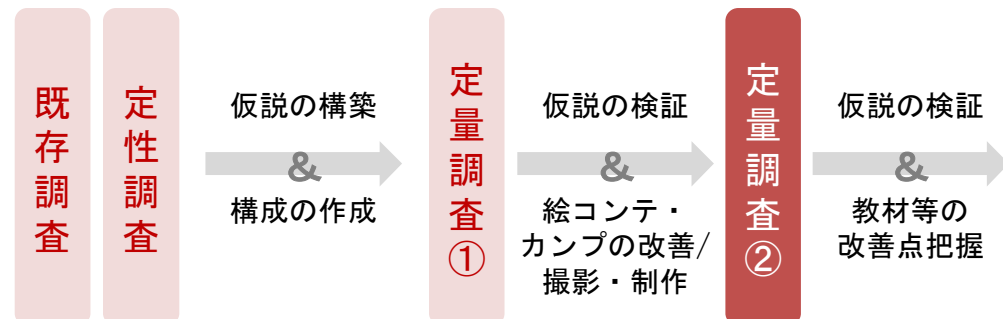
※準モデル事業は現在継続中のため、最終的な報告書は第9回検討会にて報告

設問項目

■ 受講生向けアンケート

- ・授業や教材の満足度・理解度
- ・授業内容の感想 など

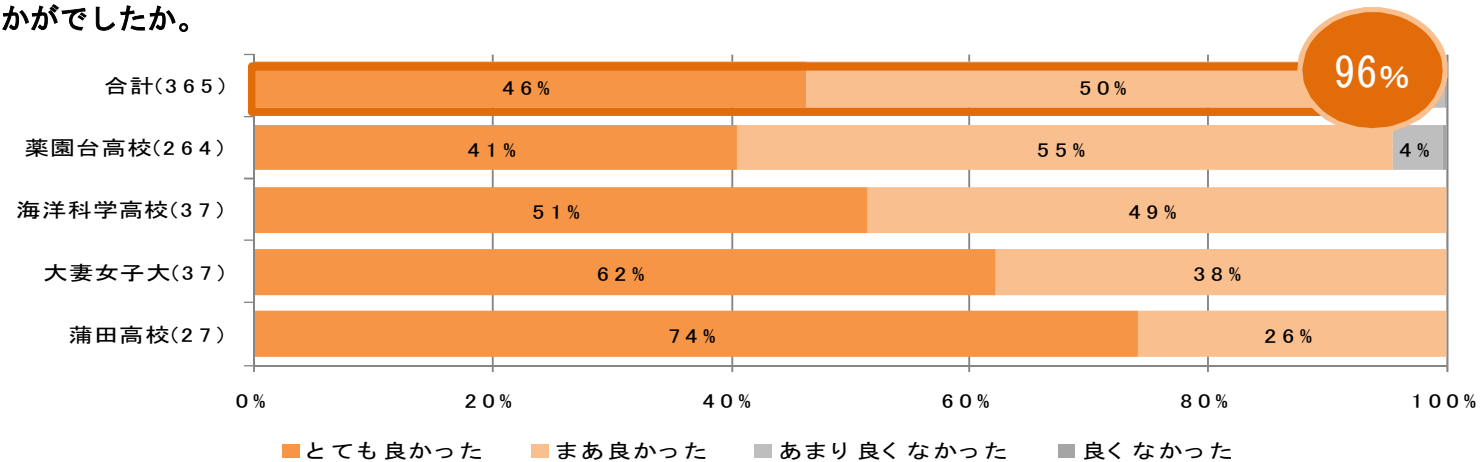
本調査の立ち位置



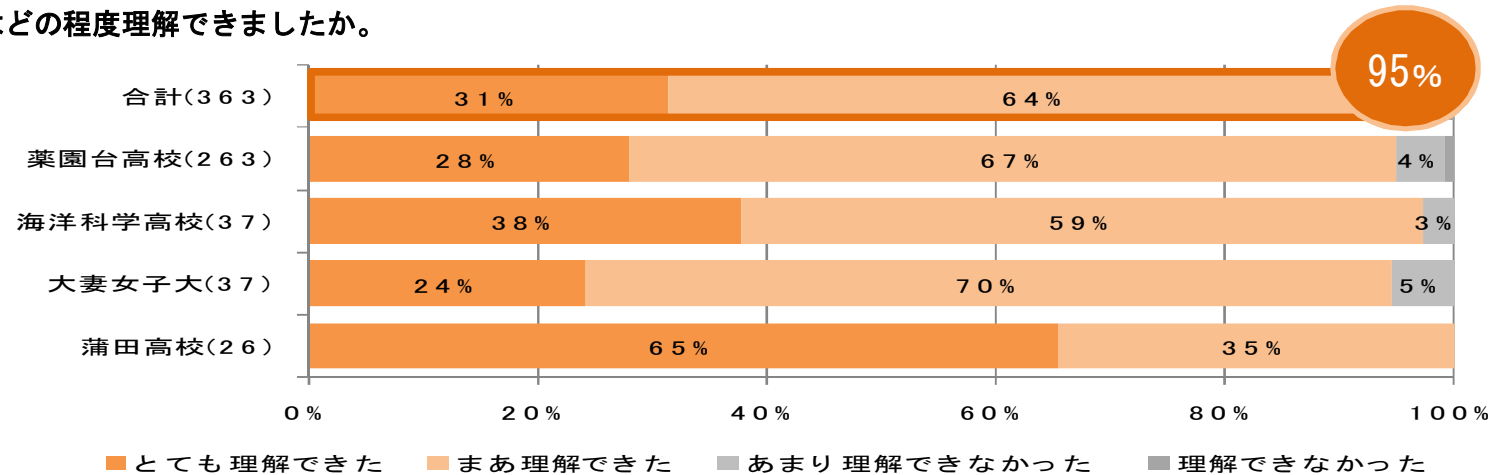
4-1. アンケート結果：授業の満足度・理解度

- 授業の満足度は高く、「とても良かった」「まあ良かった」が全体を占め、「とても良かった」が蒲田高校では7割以上、大妻女子大学では6割以上、海洋高校では半分以上となった。
- 理解度については、蒲田高校では「とても理解できた」が6割以上を占めた。海洋高校では「とても理解できた」は4割弱に、薬園台高校、大妻女子大学では2割弱に留まったものの、「まあ理解できた」がほとんどという結果となった。

Q1. 本日の授業はいかがでしたか。



Q2. 授業の内容はどの程度理解できましたか。



4-1. アンケート結果：授業で理解できた点（自由回答）

- ・ 蒲田高校や海洋高校では、今、そして未来の自分にとっての年金の必要性に関する感想が多くを占めた。一方大妻女子大学では、年金を払うことへのメリット・デメリットに関する感想が多い傾向。またどちらでも、障害年金や遺族年金が印象深かったとみられる感想が多かった。

Q3. 本日の授業で公的年金について理解できた点を、ご自由にお答えください。

●年金の必要性について

- ・ 目先のお金のためではなく先のお金のことを考えていかなければいけないと思いました（蒲田高校）
- ・ 年金を払っていれば、老後のくらしがちょっと安定する（蒲田高校）
- ・ 年金が必要なこと、年金を払ったほうがいいこと（海洋高校）
- ・ 間違いなく、万が一60歳すぎまで生きた時生活が苦しくなるので、常に収入があるようにしていよう（海洋高校）
- ・ 入っておくべきだと言うのがよくわかった（大妻女子大学）
- ・ 絶対将来役に立つとわかりました（大妻女子大学）

●年金の種類について

- ・ 不安を取り除いてくれる遺族年金や障害年金の存在（蒲田高校）
- ・ 年金にも種類があり、私たちにもしも何かがあっても心配することなく生活できることがわかりました（蒲田高校）
- ・ 年金にもいろいろな種類があるなんて初めて知った（海洋高校）
- ・ 年金は老後だけではなく、近い将来受け取るかもしれないことが理解できました（海洋高校）
- ・ 「年金」といっても様々な種類があり、老後のみならず、生涯のいろいろな場面で役立つ可能性があるということが、非常によくわかりました（大妻女子大学）
- ・ 年金というと、どうしても老人の方のイメージばかりでしたが、年金にいかにか若者が重要なのかわかりました（大妻女子大学）

●年金のメリット・デメリットについて

- ・ 年金を払えばいつかいいことがあると思った（海洋高校）
- ・ 年金は意外といいことばかりだった（大妻女子大学）
- ・ 10年後に得できる！（大妻女子大学）
- ・ 25年以上払っていないと受け取ることができないと分かった（大妻女子大学）
- ・ 消費税を支払う時に年金として戻ってくるという感覚がなかったの
で知れて良かった（大妻女子大学）

●年金の仕組み・制度について

- ・ 年金の免除ができる（蒲田高校）
- ・ どのようなしくみで成り立っているか（蒲田高校）
- ・ 20歳になると国民年金に加入しなければならないこと（蒲田高校）
- ・ 年金は人々の助け合いや支え合いで成り立っている（蒲田高校）
- ・ 一生涯もらえる。20歳～60歳までの間で25年以上。月額15,250円かかる（蒲田高校）
- ・ 年金を払うようになると年金手帳が渡される事がわかりました。また、年金手帳はなくしてはいけない大切なもの（蒲田高校）
- ・ 年金は20歳から払う（海洋高校）
- ・ 公的年金とはどういう制度でなぜ存在しているのかなどよく分かりました。公的年金の利点、さまざまな申請ができることなどわかりました（大妻女子大学）
- ・ 20歳になっても学生だと免除できるということ（大妻女子大学）
- ・ 年金は2種類の方法で支払っている（大妻女子大学）

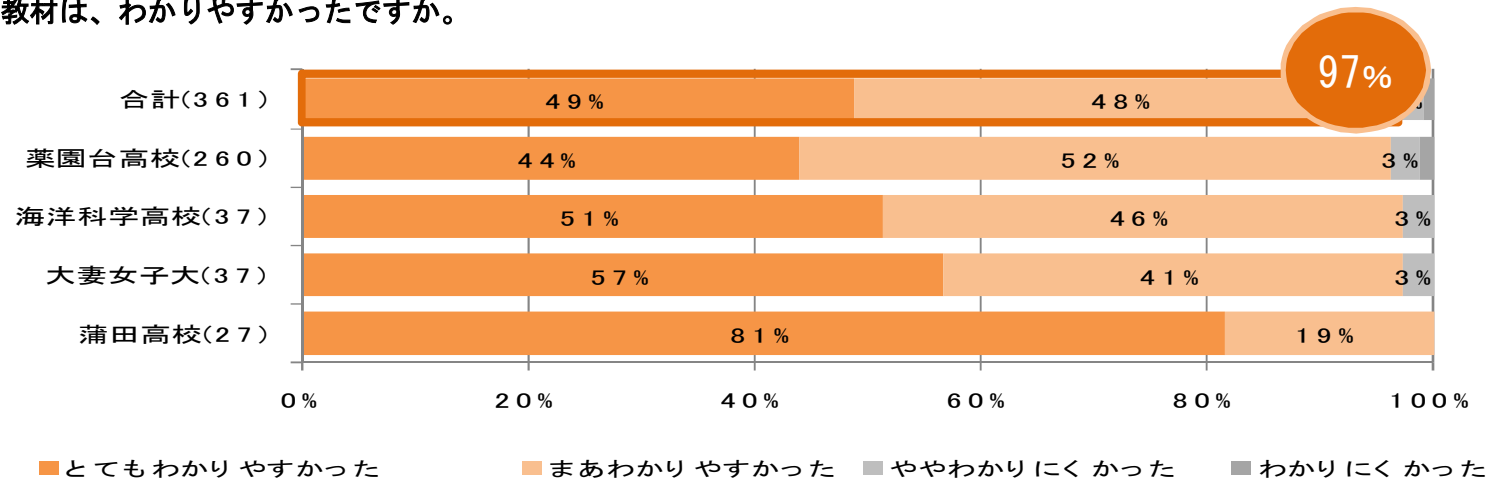
●その他

- ・ 20歳から払わなきゃいけない年金は月額もっと思っただけ1万5千円くらいでびっくりした（蒲田高校）
- ・ 信用していいという点（蒲田高校）
- ・ 本当に自分に返ってくるのか不安があったが、映像がわかりやすかった（大妻女子大学）
- ・ 全く知らない年金のお話が聞けて良かった（大妻女子大学）
- ・ 国にとって大事なことだとわかった（大妻女子大学）

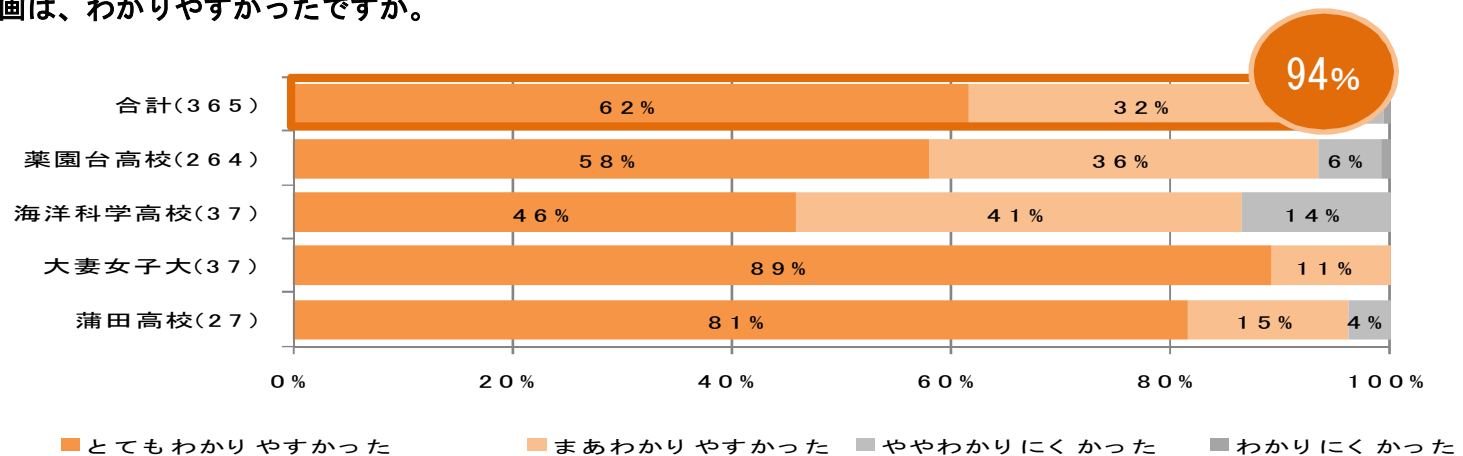
4-1. アンケート結果：教材・動画のわかりやすさ

- 教材・動画ともに、「とてもわかりやすかった」「まあわかりやすかった」がほとんどを占めた。
- 教材については「とてもわかりやすかった」が蒲田高校では8割を占め、大妻女子大学・海洋高校では過半数を超えた。
- 一方で動画については大妻女子大学で一番評価が高く「とてもわかりやすかった」がほぼ9割、蒲田高校では8割を超えた。

Q4. 授業で使用した教材は、わかりやすかったですか。



Q5. 授業で使用した動画は、わかりやすかったですか。



4-1. アンケート結果：動画の感想（自由回答）

- 桃太郎の物語になぞらえた解説は全体的に好評。「分かりやすい」という声とあわせ、大妻女子大学では「かわいい」という感想が多くを占めた。また財産の差し押さえなどを恐れる声も多く、年金を払わないリスクについての恐怖訴求も効果的だったことが見受けられる。

Q6. 動画をご覧になって印象に残った内容や感じたことをお答えください。

●桃太郎について

- 桃太郎の物語で年金のお話をしてくださってとても分かりやすかった（蒲田高校）
- 桃太郎の話を使ったのが分かりやすかった（蒲田高校）
- 桃太郎にたとえたのがわかりやすかった（海洋高校）
- 年金と聞くとどうも難しそうでとっつきにくいけれど、かわいいイラストを使って下さっていてとても見やすかったです。桃太郎等知っているもので例えているのも分かりやすかったです（大妻女子大学）
- 内容がまとまって桃太郎を例えに出しててわかりやすかった（大妻女子大学）

●分かりやすさについて

- 分かりやすく説明されていた（蒲田高校）
- 見やすかった。声がききやすかった（蒲田高校）
- 分かりやすくまとめてあって見やすかったです（海洋高校）
- 全体的に分かりやすく楽しかった（海洋高校）
- 口頭の説明だけでなく、その話した内容を動画によって図解のような形で説明されるため、理解がスムーズでした（大妻女子大学）
- 小さい子供にもわかりやすそうでした（大妻女子大学）
- かわいらしい絵でわかりやすかった（大妻女子大学）
- 年金に加入するメリットがわかりやすかった（大妻女子大学）

●年金を払わないことのデメリットについて

- 年金を納めないと差し押さえもあるかもしれないのを見て、不安に思った（蒲田高校）
- 年金を払っていない人より払っている人の方が得ということ（蒲田高校）
- 年金を払わない人は、とても損をする（蒲田高校）
- 公的年金を払わない人のところが印象に残った（蒲田高校）

●今後の改善に繋がる意見

- 話が早い（蒲田高校）
- 内容はよかったが、内容の進みが速いと感じた。もう少し進行やしゃべりの速度を落とした方が良いと思う（蒲田高校）
- 桃太郎に関するそれぞれの役割は先に解説してほしかった（海洋高校）

●その他

- 年金は学生にも関係があるんだと思った。もっと年金について調べてみようと思った（蒲田高校）
- 年金がどのようなしくみでできているのかを知れて良かった（蒲田高校）
- 子どもや自分自身が死んでしまっても遺族年金があるのは助かるとは思いましたが、残された人を見ると悲しくなりました（蒲田高校）
- 助け合いが必要（蒲田高校）
- 生活にはお金がかかる（海洋高校）
- 年金は20歳になると加入しなければならない（海洋高校）
- 払ってない人でも申請することで半分は受け取れる（大妻女子大学）
- 年金をどのように国が使っているか、払う人、払わない人の違い（大妻女子大学）
- 若いうち（20歳）からの準備が必要（大妻女子大学）
- 年金といっても色々な種類があることを知りました（大妻女子大学）
- 年金はどのような形で社会を支えているかよく理解できました（大妻女子大学）
- 日本の法律ということを知った（大妻女子大学）
- 年金がいかに信頼できて自分に役立つものか分かった（大妻女子大学）

※青字：男性 赤字：女性

4-1. アンケート結果：ライフイベントシミュレーション・申請書記入の感想（自由回答）

- ・ ライフイベントシミュレーションについては、蒲田高校・海洋高校の方がポジティブな感想が多い。一方、将来かかるお金への不安は、どちらの学生からも寄せられた。
- ・ 申請書記入については、「難しい」という声も多くあったものの、「実際に記入してみて自分事になった」という感想もみられた。

Q7. ライフイベントシミュレーションや申請書を記入してみて感じたことをお答えください。

ライフイベントシミュレーション

●自分の将来について

- ・ 自分の将来が良く考えられた（蒲田高校）
- ・ 自分の将来と向き合うのは大切なことだと思った（蒲田高校）
- ・ 将来の自分について考えられて楽しかった（海洋高校）
- ・ 今後の生活・お金に関してのことを考える良い機会になりました（海洋高校）
- ・ 改めて、社会人・結婚・家を建てるなどを考えると理想よりも年が上になってしまいました（大妻女子大学）
- ・ 定年退職してからの人生は長いんだと感じた（大妻女子大学）
- ・ 将来のことなのでむずかしかった（大妻女子大学）

●その他

- ・ 絵がかわいらしくて記入しやすかった（大妻女子大学）

●将来への不安について

- ・ お金の使い道を今のうちから考えなければいけないと思った（蒲田高校）
- ・ お金が思ったよりもかかって焦った（蒲田高校）
- ・ 働いている間はなんとかやるけど仕事をやめてからの不安が多いことも知った（蒲田高校）
- ・ 金たりのかな（海洋高校）
- ・ こんなにうまくいくのか心配になった（海洋高校）
- ・ 人生にはたくさんのお金があるんだなと思った（大妻女子大学）
- ・ 自分の将来のことを考えると意外とお金がかかると分かった（大妻女子大学）

申請書記入 ※蒲田高校・海洋高校でのみ聴取

●難しいという意見

- ・ 難しかった。一人で書けるか不安になった（蒲田高校）
- ・ 書く項目だったり、所々の単語の意味が分からなかったです（蒲田高校）
- ・ 実際に書こうとすると時間がかかると思う（海洋高校）

●簡単だという意見

- ・ めんどくさがる人がいると言っていたからすごいたくさん書くだろうなと思っていたけど、かんたんに書けた（蒲田高校）
- ・ 意外と簡単そうだった（海洋高校）
- ・ 思ったより記入するところがなかった（海洋高校）

●自分事になったという意見

- ・ 自分は進学するから、アルバイトしてても払えない時などもある時に申請書の書き方を今のうちに学べてよかった（蒲田高校）
- ・ 将来のためになったと思った（蒲田高校）
- ・ 自分もいつかは本物を書く日が来るんだなと思いました（蒲田高校）

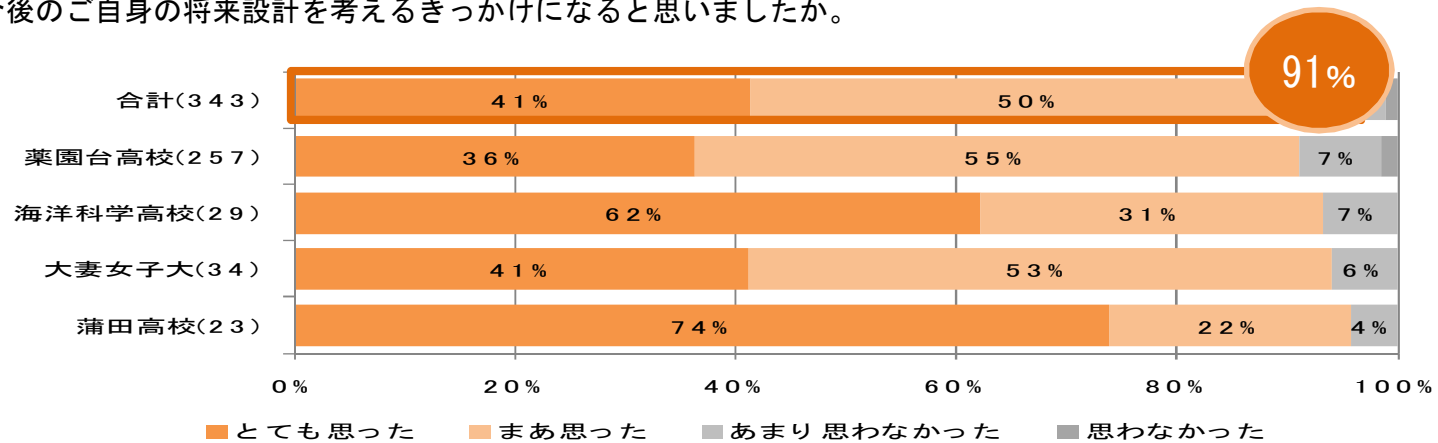
●その他

- ・ 大人になっていく上で書類なども増えて手続きとかが多くなるので、間違いや書き忘れなどがでてくるんじゃないかと思いました。（蒲田高校）
- ・ 今までは申請書の書き方などはわからなかったけれど、教えてもらったので、20歳になっても安心しました（海洋高校）

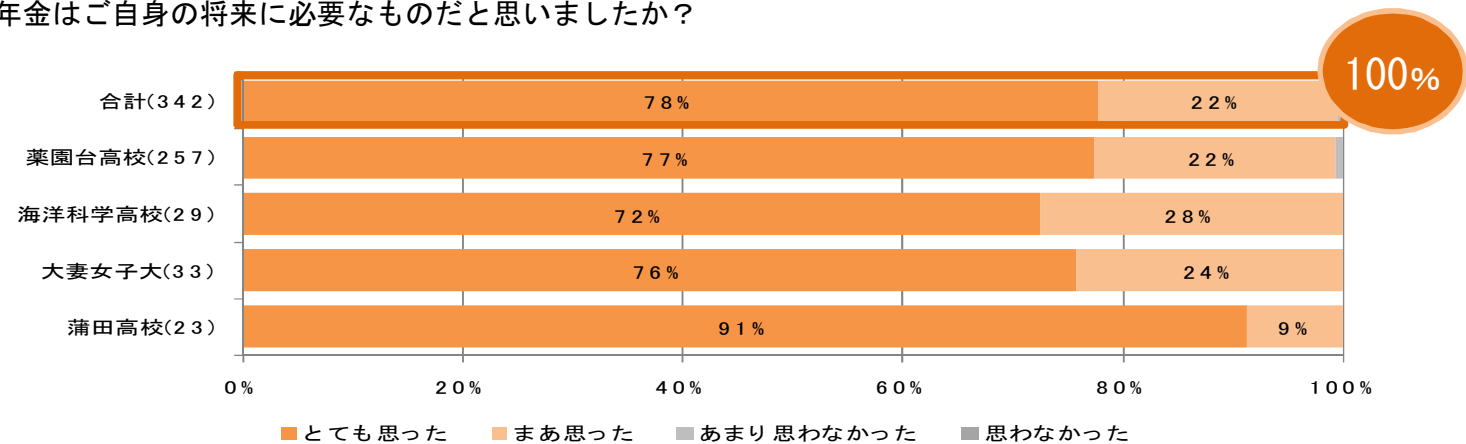
4-1. アンケート結果：将来設計について・公的年金の必要性について

- ・ 将来設計を考えるきっかけになるかどうかという問いでは、全体の9割以上が「なると思う」と回答。
- ・ 特に蒲田高校では、7割以上が「とても思った」と答えた。
- ・ 公的年金は自身の将来に必要なものかどうかという問いでは「思う」が100%。「とても思う」が8割弱を占めた。
- ・ 特に蒲田高校では9割以上が「とても思う」と回答。

Q8. 授業を受けて、今後のご自身の将来設計を考えるきっかけになると感じましたか。



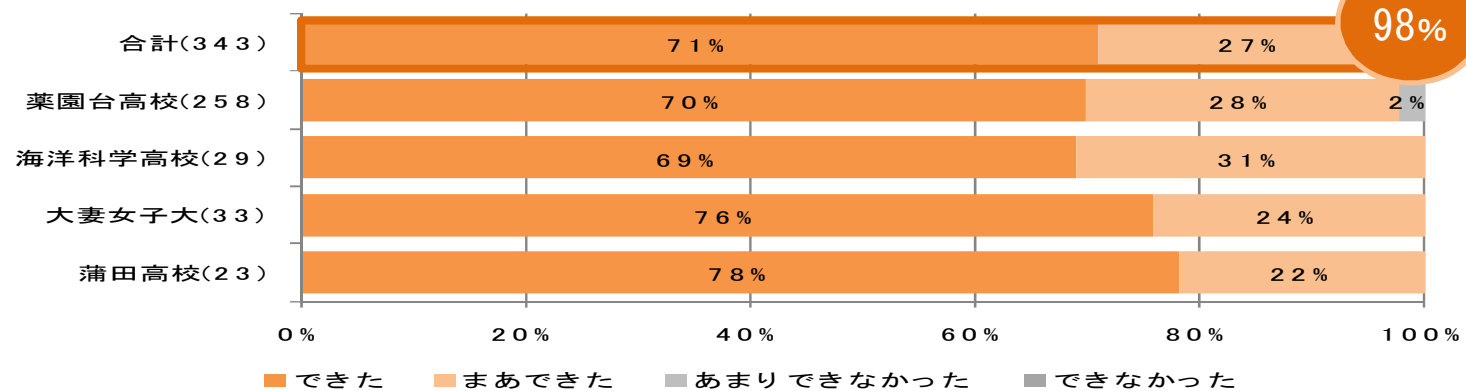
Q9. 授業を受けて、公的年金はご自身の将来に必要なものと感じましたか？



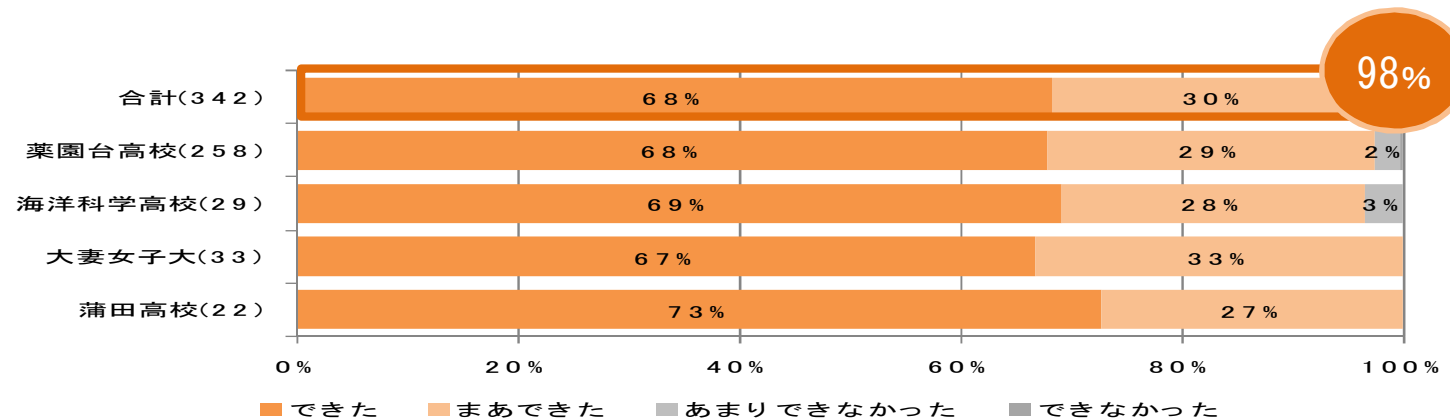
4-1. アンケート結果：納付意義・財産差し押さえに関する理解度

- どちらの設問も全体の98%を「とても思った」「まあ思った」が占めた。
- 保険料を納付する意義については、蒲田高校・大妻女子大学が約8割、海洋高校と薬園台高校のおよそ7割が「理解できた」と回答。
- 未納の場合の差し押さえについては、どの学生も約7割が「理解できた」と回答した。

Q10. 授業を受けて、保険料を納付する意義は老後だけでなく一生のリスクに備えるものだということを理解できましたか？



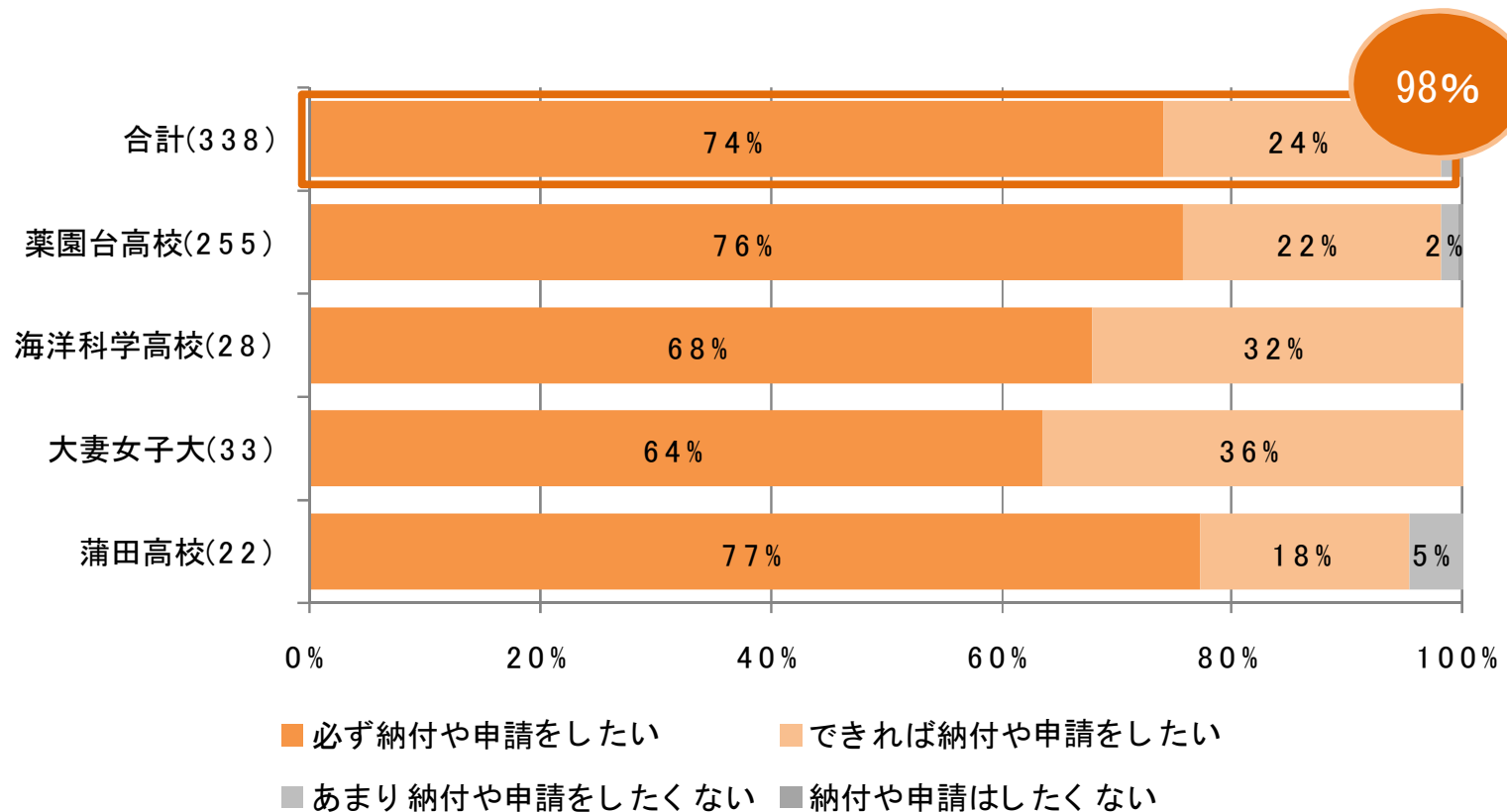
Q11. 授業を受けて、未納の場合は財産等の差し押さえがあることを理解できましたか？



4-1. アンケート結果：今後の納付・免除申請意向

- 保険料の納付意向や免除・猶予の申請意向については、全体で98%が意向ありと回答。薬園台高校・蒲田高校では約8割、海洋高校では約7割、大妻女子大学では6割強を「必ず納付や申請をしたい」が占めた。
- 「できれば納付や申請をしたい」を含めると、ほとんどの学生が「納付や申請をしたい」と回答した。

Q12. 授業を受けて、保険料を納付したり、(納付が困難なときは)免除や猶予の申請をしたいと思いませんか？
※未成年の方は、20歳になってからのことをお答えください。



4-1. アンケート結果：今後の納付・免除申請意向/年金について更に知りたいこと（自由回答）

- 将来の自分のために納付や免除・猶予の申請をしたいという回答が多数を占める結果となった。その他、損したくないという意見や、差し押さえなどの未納のデメリットを避けたいという感想もみられた。

Q13. Q12※でお答えになった理由を、どのようなことでも構いませんのでお聞かせください。

※Q12:授業を受けて、保険料を納付したり、(納付が困難なときは)免除や猶予の申請をしたいと思いましたか？

●自分や将来のために納付や免除・申請をしたい

- めんどくさがっていると、自分の老後の時にもっと大変なことになるからやっておきたいと思った（蒲田高校）
- 老後は年金がなければ生活が苦しいので、今のうちに納付しないといけないと思った（蒲田高校）
- 自分の将来を考えた結果（蒲田高校）
- 年金というものは必ず必要だと思ったから（蒲田高校）
- 将来の為に少しでも役立つことはしておきたいから（大妻女子大学）
- 申請しないと自分が将来困るから（大妻女子大学）
- 老後のため（大妻女子大学）
- 自分に必ず必要なものであると感じたから（大妻女子大学）
- 自分のためになると思ったから（大妻女子大学）
- 将来自分になにかあった時のために役立てたい（海洋高校）
- 年金の大事さがわかったから（海洋高校）
- 年金が本当に必要なものだと思ったからです（海洋高校）
- この先何があるか分からないから（海洋高校）

●年金未納によるデメリットを避けたい

- 差し押さえが恐怖（蒲田高校）
- 前テレビで差し押さえの番組をみて恐ろしかったから（海洋高校）
- 申請しないと損する（海洋高校）
- 損したくない（大妻女子大学）

●その他

- お金があるなら免除はしない（蒲田高校）
- 払える限り払いたい（蒲田高校）
- 免除したいから（蒲田高校）
- まだ知らないことがたくさんあるから、よく考えてから決めたい（海洋高校）
- 申請がめんどくさそう。役所はややこしくてあまり行く気になれない（大妻女子大学）

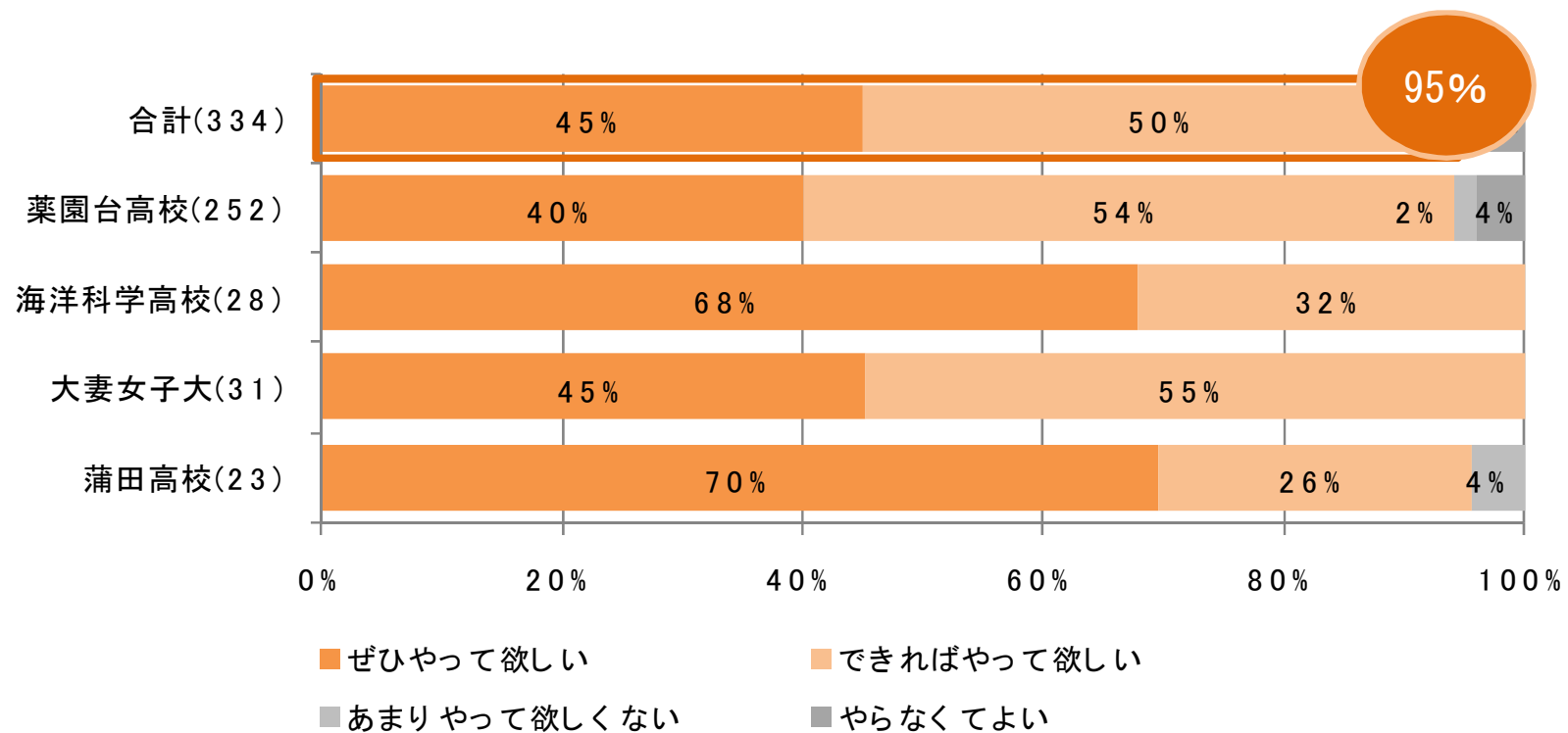
Q14. 公的年金についてもっと詳しく知りたいことはありますか。ご自由にお答えください。

- 全部より詳しく知りたい（蒲田高校）
- もっともっと詳しく知りたいです（蒲田高校）
- 年金を払う方はお金を払う量が増えるのか（蒲田高校）
- 親が納付して無かった時の話（大妻女子大学）
- 少しでも多く金をもらえる方法（海洋高校）

4-1. アンケート結果：今後の授業実施について

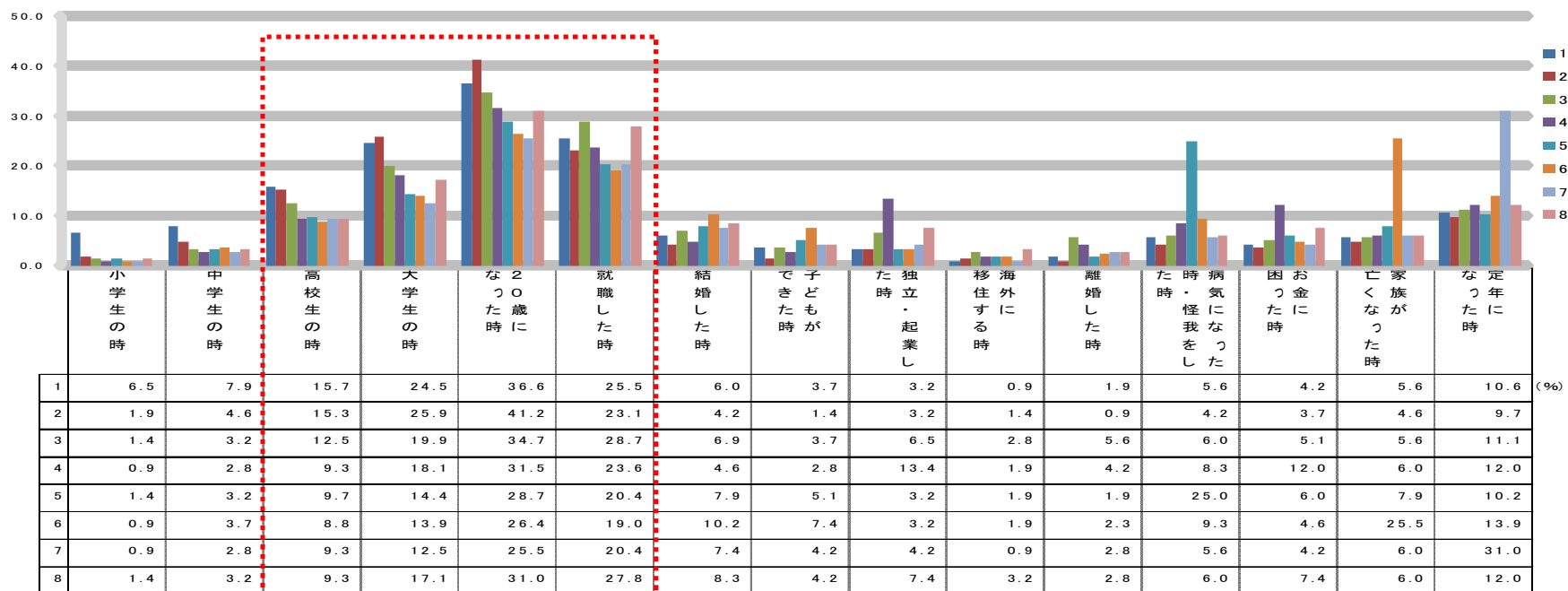
- 来年度も後輩のために同じ授業をやってほしいかという設問については、全体の95%が「やって欲しい」と回答。
- 蒲田高校・海洋高校では、「ぜひやって欲しい」が7割を占める結果となった一方で、大妻女子大学・薬園台高校では4割強に留まった。

Q15. ご自身の後輩のために、来年度もこの授業をやって欲しいと思いますか？



- どのようなときに読みたいかを聴取したところ、8種類どのパンフレットにおいても、「20歳になった時に読んでみたい」が最も高く2.5～4割程度。「就職した時」が2～3割程度で続く。
- 「小学生の時」「中学生の時」については、すべてのパンフレットにおいて1割を下回っているが、「高校生の時」「大学生の時」「20歳になった時」「就職した時」など加入年齢の前後の接触意向が高く、高校生意向が年金に関する情報発信の適齢期であることがうかがえる。
- 「お金に困った時」の「免除・猶予制度」パンフレットの閲読意向は1割強に留まり、「免除・猶予制度」はお金に困った（＝納付が困難）際に利用できる制度であることを想起させるための工夫が、引き続き必要と考えられる。

Q. それぞれのパンフレットについて、どのような時に読んでみたい（読みたかった）と思いますか。



5.分析結果



5-1. 考察

授業の満足度

- ✓ 高校生はそもそも年金がどういうものなのかという点や年金の必要性について理解できたことに満足感を持っている。一方、大学生は年金のメリット・デメリットを知ることができたことについて満足感を持っている様子である。年代によって、満足に感じるポイントに違いがみられる。対象によって訴求ポイントの比重を変えるとさらに効果的な授業になるのではないか。

教材について

- ✓ 動画については、桃太郎の物語になぞらえたり、親しみやすいキャラクターを用いることにより、学生たちの理解度を促進できたといえる。
- ✓ その一方で、内容の進みが早いといった声もみられ、学生にとっては動画に詰め込まれた情報量が多く、それに見合う適切な速度での解説が必要ということがわかった。解説後に復習の形で動画を見せるとより深い理解が得られるようだった。
- ✓ 授業内で利用した教材については、ライフイベントシミュレーションシートや申請書の記入などを通して、年金が自分事になったとみられる声があり、効果的だったといえる。
- ✓ しかし、申請書の記入については「難しい」という感想も多くきかれ、抵抗感を持った学生も多いようだった。今後はいかに手続きへの抵抗感をなくすかどうかという点も課題だといえる。

5-2. 考察

将来設計・ 公的年金の必要性について

- ✓ ライフイベントシミュレーションを通した将来設計については、大学生よりも将来のことを考える機会の少ない高校生の方が反応が顕著であり、効果的だといえる。
- ✓ 「自分の将来について考えた結果、年金は必要だと感じた」という感想が多いことより、ライフイベントシミュレーションを通じて公的年金の必要性についての理解度は高められたようだ。

納付意義・財産差し押さえ に関する理解度

- ✓ 遺族年金・障害年金の存在を新鮮に感じている学生が多かったため、将来の自分のためだけでなく、今現在の自分にとっても年金は必要な存在であるというメッセージは、納付意義への理解を促進した様子である。
- ✓ 「年金の未納による差し押さえがある」という恐怖訴求については、数は少ないがこれにより納付意向を示す学生もあり、ポジティブなアプローチが効かない一部の層に対しては、効果的な手法であるといえる。

今後の納付・免除意向

- ✓ 将来の自分について考えることを通して、年金が自分に関係のある身近なものと理解することが、納付意向に結び付きやすいプロセスであるといえる。

今後の授業実施について

- ✓ 年金についてもっと詳しく知りたいという点については、具体的な回答をあまり得られなかった。学生自身に年金についてさらに興味を持って調べてもらえるような取り組みが必要。